

盆踊り漫遊

竹中尚文

第7回 第2次世界大戦と強制収容

1. パールハーバー

アメリカ合衆国は1941年12月7日、ハワイのパールハーバーを旧日本軍に攻撃されました。日本時では1941年12月8日未明でした。これによって、太平洋戦争(第2次世界大戦の日米間の戦い)が始まりました。そして、日系人の強制収容がおこなわれます。

強制収容は、大統領行政命令9066号によって実行されました。これは1942年2月19日、ルーズベルトによって出されました。アメリカ合衆国にとって不適切な人間を強制収容することを陸軍長官及び陸軍司令官に認めるものでした。これを受けて、デウィット中將は1942年3月2日に布告第1号を發布して、日本人及び日本人を先祖に持つ者を、強制収容することにしました。強制収容が実行されるのは3月でした。

2. 強制収容

強制収容の様子は前回にも紹介した映画『愛と哀しみの旅路』(“Come See the Paradise” 1990年アメリカ映画)が実に正確に描いています。アラン・パーカー監督で、デニス・クエイドとタムリン・トミタ主演の見て頂きたい映画です。日系人が胸のところに白いタグをぶら下げて、手にはボストンバッグを持って列をなしていました。その列は、兵士の取り囲む中で窓を塞がれた列車に乗り込んで行きました。まずは、競馬場に送られ、厩舎があてがわれました。その後、全米各地に作られたキャンプに移送されました。映画はこうした状況を映像で見せてくれます。ナチスドイツと闘っていたアメリカ合衆国での出来事とは思えない光景です。

3. 強制収容決定の背景

開戦から強制収容までは、とても短い時

間でした。1941年12月に開戦し、翌2月に大統領行政命令が出て、3月には強制収容が始まっています。大統領行政命令については、何人かの政治家や軍人も不要であると反対していますし、大統領夫人のエレノアですら反対したといわれています。どうして、こんなに短時間で強制収容が決まったのでしょうか。

大統領行政命令の発布を推進した要因の一つは、当時の空気感だったと思います。パールハーバーへの攻撃は、アメリカ国民にはショックな出来事でした。とりわけアメリカ本土の西海岸の人々は、いつ日本艦隊が攻めてくるかも知れないという気分であったようです。ジョン・ベルーシ主演のドタバタコメディ映画『1941』（スティーヴン・スピルバーグ監督、1979年公開）は、日本の潜水艦がロサンゼルス沖から攻撃をしてくるという設定で、人々が慌てふためく様子を描いたものです。冷静に考えれば、当時の日本にとってもそこまでの軍事力はなかったのですが、アメリカの人々には攻撃されるように思えたのでしょうか。こういうときこそ、指導者に冷静な状況判断が必要であったと思います。

当時、アメリカ本土の西部防衛を担っていた陸軍第4軍の司令官がジョン・デウィット

中将でした。彼は実戦経験のない軍事官僚でした。そんな人物が司令官となり、サンフランシスコやロサンゼルスに空襲警報を出すべきだとか、沖合に日本艦隊を発見したとかいって、部下を辟易させたそうです。

このデウィット中将が、日系人をこのまま沿岸部に居住させてはいけないと主張し、ルーズベルトに強制収容を進言したのです。それを受けて、ルーズベルトは大統領行政命令に署名したのです。私は、デウィット中将からルーズベルト大統領への報告書をさがしました。大統領は報告書を受けて大統領行政命令を出したのですから、その報告書があるはずでした。いろいろな文献をさがしましたが、どこにもその報告書が記載されていません。昨年、その報告書についての報道がありました。デウィットの報告書は10部のコピーが存在したそうですが、後に陸軍によって廃棄されていたそうです。昨年の報道は、廃棄されたのは9部で1部が個人によって保管されていたということでした。その報道は、その1部残ったデウィット報告書の内容まで公表していませんでした。いずれにしても、デウィットは「ジャップはジャップだ」というのが口癖のような、日本人差別主義

者でしたから、報告書はかなりの人種差別的な内容であったかと思われま

す。強制収容の原因が、デウィットの人種差別思想だけであったとは言い切れません。デウィット中将ともう一方の当事者であるルーズベルト大統領にもあったのです。

ルーズベルト大統領は、日本人に対する強い差別思想を持っていたようです。カリフォルニアの支援者との間で「日系人全員に、不妊手術をおこなうべき」という会話が交わされたことがあったそうです。また、「日本が敗北をしたら、日本人に他民族との結婚を推奨すべきである」と述べたともいわれています。彼が死亡したのが、1945年4月ですから、彼が戦後まで存命で日本の戦後政策を執っていたならば、戦後の日本の形はどうなっていたでしょう。また、広島と長崎に原爆投下を決定したのも彼でした。いずれにしても、日系人強制収容の決定について、デウィット中将とルーズベルト大統領の日本人差別の意識が大きく働いたのです。

4. FBIによる逮捕

日系人強制収容より前に、FBIによる逮捕者がずいぶんいたようです。逮捕者の多くが仏教僧侶でした。僧侶が伝える仏教

は反米思想ではないかというものです。

FBIの捜査の結果、木の棒を準備してアメリカと闘う準備をしていたとか、お寺にあるはずのないピストルやダイナマイトを発見して、逮捕したということも聞きました。

ロサンゼルスの北北西にあるグアドループという町で開教使をしていた松浦逸清いっせい師が逮捕されたことを奥様の松浦忍さんが記録していました。

1942年(昭和17年)2月18日早朝、まだ寝巻ねまきのまま、炉辺ろへんで戦況放送を聞いていた時です。裏の戸をだれかがしきりに叩きますので出てみると、白人が三人たっています。FBIです。

「開教使松浦逸清を逮捕にきた。」と、家に入りました。かねて覚悟はしていましたが、いざとなると全く驚きました。着替えだけすぐ用意をするようにと命ぜられるまま、とりいそぎ下着類と少々の日用品をカバンに入れて、法衣けさと袈裟けさ、聖典せいてんそれに観無量寿経くわんむりょうじゅきょう講話こうわを別に包みました。

《中略》

用意もすんで最後の礼拝にと会堂

にゆき、夫は仏灯に火を点じ香を
たき嘆仏偈^{たんぶつげ}を静かにあげ、ゆっく
りとお念仏をとなえています。そ
の間、末娘と私はこれが最後かも
知れないと涙ながらに合掌いたし
ました。

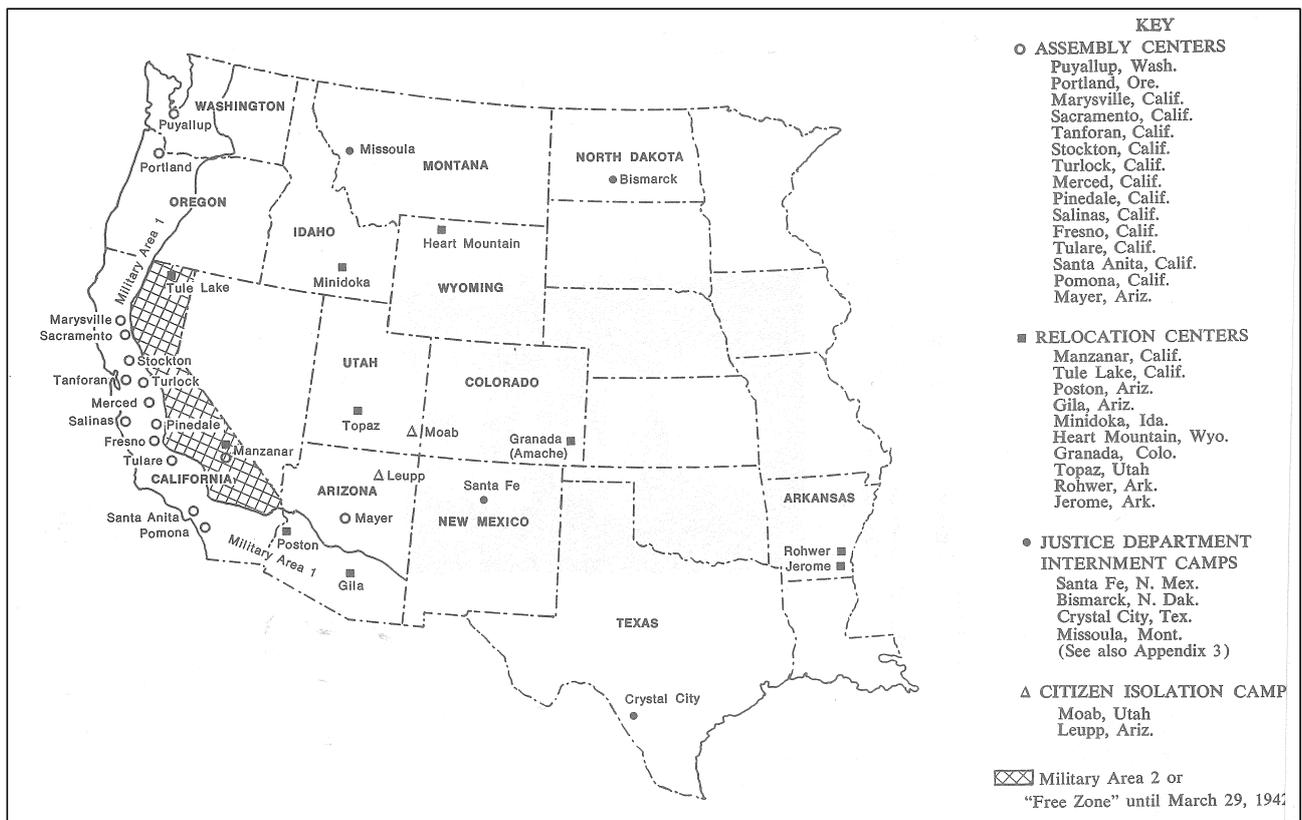
『悲願 一松浦忍・在米五十余年
記念文集一』松浦忍著 自費出版
1972年／英訳は1986年

この後、松浦師はノースダコタ州のビス
マルク収容所に送られました。ビスマルク

収容所は司法省管轄の捕虜収容所です。松
浦逸清師は、1947年に亡くなっているの
で話を聞くことができませんが、私は他に
この収容所に入れられた人を聞いたこと
がありません。この収容所は、アメリカ合
衆国国内で諜報活動をしたドイツ人やイ
タリア人も入れられていたそうです。

収容所の具体的な話は次回にしたいと思
います。

全米の収容所の配置図



“YEARS OF INFAMY” Michi Weglyn 1976 より引用